



長尾和宏 (ながお・かずひろ) 医学博士。東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。この連載が『平成臨終図巻』として単行本化され、好評発売中。関西国際大学客員教授。

- 釣りは不得手ですが、昔読んだ漫画にあった「釣りの十戒」が心に残っています。
- 一、釣り人は釣り場ではすべて親友であれ。
- 二、釣り人は魚をいたわり自然をいたわれ。
- 三、釣り人は釣り場を秘密にすべからず。
- 四、釣り人は仕掛けを秘密にすべからず。
- 五、釣り人は釣果を気にするなかれ。
- 六、釣り人は他人をうらやむなかれ。
- 七、釣り人は竿を棒切れのごとく大胆に使い、金のタマゴのごとく大切にすべし。
- 八、釣り人は装備に最新の注意を払い身体を大切にすべし。
- 九、釣り人は水をあなどる

183 漫画家 矢口高雄



「釣りキチ三平」哲学 何事にも応用可能

素晴らしいと思いませんか。あらゆる趣味、あらゆる職業に応用可能な哲学でしょう。これを書かれたのは、『釣りキチ三平』をはじめ自然と人間をテーマに描き続けた漫画家の矢口高雄さん。11月20日に都内の病院

で亡くなりました。享年81。死因は膵臓(すいぞう)がんとの発表です。先頃、国立がん研究センターが「がん10年生存率」の最新データを発表しました。がん全体では58・3%、前立腺がんが最も高く98%、乳がん、甲状腺がん、子宮体がんも80%を超えている一方、胆のう・胆管がん19%、肝臓がん16%、そして膵臓がんは6%という結果です。

膵臓がんは未だ治療と診断が非常に難しいために、見つかったときには余命3カ月と言われる人も少なくありません。しかし逆に言えば、がんがかなり進行するまで自覚症状がほとんどない。

矢口さんの故郷である秋田県の横手市漫画美術館では、10月から「矢口高雄画業50周年記念展」を開催中、会場には急遽(きゅうきょ)祭壇が設けられたそうです。その魂は今頃、「三密」など無縁の秋田の山里に戻られて、溪流釣りを楽しんでいることでしょう。

心に残る「釣りの十戒」